

# やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER 6号 2015年10月発行  
NPO 法人やまなしライフサポート  
〒400-0836 甲府市小瀬町 654  
山梨カトリック福祉センター  
TEL/FAX 055-241-2545  
E.Mail yls@mx6.nns.ne.jp  
ホームページ http://www6.nns.ne.jp/~yls/

## 弱さを補いながら生きるために やまなしライフサポート理事長 中山八十司

やまなしライフサポートの活動に加えて頂いてから6年  
間が経過しました。その間に橋の下や公園、駅構内等にお  
いて出会えた方々から多くのことを教えられ、自分自身が大き  
く変えられてきたことを今実感しております。

特に印象に残るのは、初めて炊き出しの料理をお弁当にし  
てもらい、小さな橋の下で暮らすご老人に届けた日のこと  
です。私が何十年間もの間、全く気づかず毎日通過していたそ  
の橋の下には、Kさん、当時82才のかけがえのない生きる  
ための空間、人間の尊厳すら感じさせる世界がありました。  
道路から橋の下への降り口は目立たないように、だが歩き  
やすく踏み固められ、住まいとなる空間への入り口にはなに  
げなく花や小ぶりの植木が植えてありました。長く生活してき  
た住主の優しいぬくもりがありました。

出会いから約一カ月後に、本人が納得して甲府市内の施  
設に入居することになりましたが、その橋から転居する当日  
どうしても今まで世話になった方にお礼を言いたいからと主  
張し、入所を一日延期しました。何年もの間、いつもお店の  
残り物だと言って、夜こっそりとKさんに食糧を届けてくれた  
ご婦人がいたことを後で話してくれました。

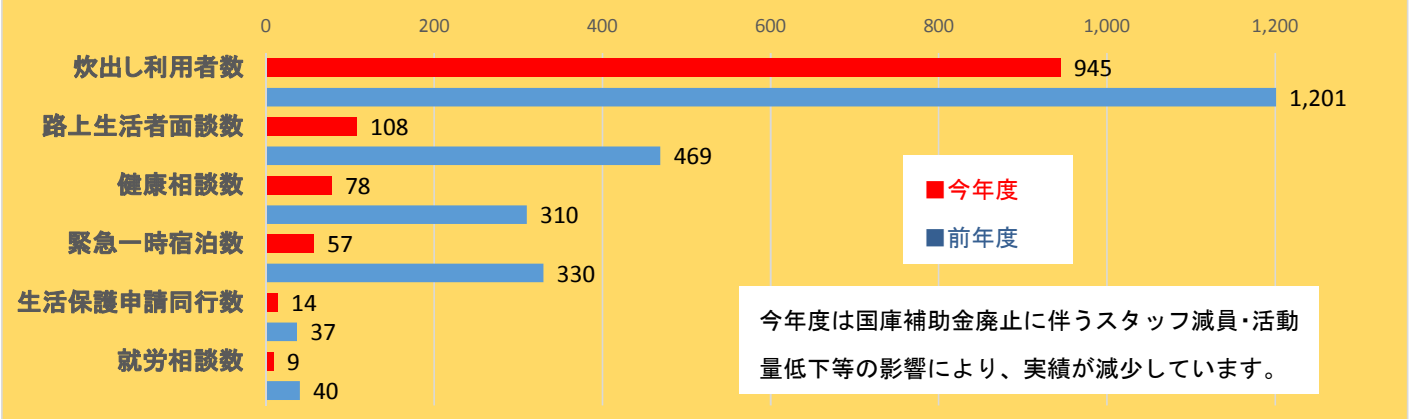
県内の20を超える大小の橋、10以上の公園をボランティ  
アの方々と協力しながらパトロールしてきました。路上生活

者への支援や交流が可能になるまでには想像以上の時間  
がかかります。信頼されるような人間関係が生まれたおかげ  
で、いろいろなことを教えられ助けられました。上から目線の  
押しつけ支援がどんなに迷惑か。どんな場所がひっそりと暮  
らすのに適しているか、水や食料をどのように確保するのか。  
地元の中学生の無慈悲な嫌がらせと、その親たちの対応。  
橋の下に小屋を作るために木材を提供してくれる近所の  
やさしい大工さん。黙ってなにげなく援助してくれる貧しい  
方々。

いつからか、私は大きな荷物を持って歩く人、自転車に荷  
物を過剰に乗せ、傘を横に挟んでいる人のことが非常に気  
になるようになりました。車を運転しながら無意識のうちにそ  
ういう方々に目をやっている自分に気付かされます。6年間の  
活動を通して養われてきた新しい自分の一面なのか、美  
しい女性には思わず眼がいてしまうが！

ライフサポートの活動から私が得た最大の恵みは、活動  
を通して出会った6名の人々と共に働くことができた貴重な経  
験です。同僚として苦労を共有しながら、少額でも給料を支  
払い、同じ釜の飯を分け合う活動は本当に充実したもので  
ありました。弱さを補いながら平等に生きていけるような支  
援こそが本物で長続きするものだと思っています。

### 4～9月の主な活動実績



# ライフ荘状況

笛吹市石和町にある緊急一時宿泊施設「ライフ荘」は開設2年半を経過し、多くの困窮者の支援に役立っています。

## 利用者状況(今年度上半期の一例)

利用月	年齢 性別	宿泊数	状況
4月	63歳 男性	13泊	甲府駅北口や愛宕山中腹で長期間路上生活していた方。生活保護を拒絶していたが、当法人看護師の説得によりやく応じ、生保決定後韮崎市の救護施設に入所。
5月	61歳 男性	8泊	笛吹市の河川敷に小屋を建て長期間生活していた方。公安関係者の仲介で生活保護申請しアパートに入居。
7月	49歳 男性	7泊	通勤途中のケガで失業し住居を失った。税金滞納の件で市役所に相談に行った時に生活保護制度を紹介された。生活保護でアパートを借り治療を開始。
8月	45歳 男性	5泊	失業後4年間甲府、笛吹、塩山の公園で生活していた。知人に炊出しを紹介され来所し、相談した結果生活保護につながった。
9月	48歳 男性	21泊	矯正施設出所者で富士吉田市役所からの依頼。障害者のため、地域定着支援センターが連携して支援。富士吉田市にアパートが決まり、障害者支援も受けることに。

## 利用者の声

【Kさん 男性・60代】

### 人としての通常の生活に戻れたことの喜び

目まぐるしい世間に背を向けて、閉鎖的な思考の中で自分とはどういう存在なのかと問いかけても、人生の落伍者とか生活困窮者とかの答えしか見いだせない虚しさの中、生きていく場を失い、公園等の施設を故なく起居の場としてきました。しかし、公共スペースにおいては不法占拠者として排除され、価値観の低い者としてさげすまされる。

そういった昏迷の日々のなか、心あるお巡りさんに勧められ、とある町の福祉課へ生活保護の相談に行きました。しかし相談とは名ばかりで、体よくあしらわれ、虚しさで虚脱感の中心身ともに少しずつ病にむしばまれ、さまよう日々を過ごしました。

甲府市内の公園にいた時に、パトロール中のお巡りさんに声をかけられ、親切に対応していただき、もう一度市役所の福祉課に生活保護の相談に行きました。その結果、やまなしライフサポートの方に巡り合い、緊急宿泊施設での生活の場を提供していただきました。アパート探しや家財提供でもお世話になり、今日に至っています。

生きるということの大切さを今さらながらに思いを深め、人としての通常の生活に戻れたことの喜びと、生きる幸せをサポートして下さったライフサポートの方々、警察官の方々、市の福祉課の方々に心から感謝と御礼を申し上げたいと思います。

## 9月よりライフ荘を増室しました

ホームレス支援のための県からの補助金が今年度より廃止となったことから、ライフ荘は本年4月より従来の4室から1室に減らして運用してまいりました。しかし、失業やDVによって住居を失う方は後を絶たず、ライフ荘の増室が喫緊の課題となっていました。

そのような中、独立行政法人福祉医療機構(WAM)に増室のための助成を申請したところ幸いにも決定となり、9月より1室増室ができました。2室体制では緊急時対応力不足の解消には至りませんが、一人でも多くの方の支援にはつながるものと思います。

同助成では臨時職員の採用も併せて認められ、2名を採用しました。これにより、アウトリーチ(訪問での相談支援)の活動が広がり、新たな路上生活者の発見や継続した相談支援活動の展開が期待されています。

## 路上生活者パトロール参加者より

### 開かれなかった遺書

初秋のある日曜日、パトロールに参加し4名の仲間と二組に分かれて甲府市内を歩いた。

舞鶴公園方面を歩いているもう一組の仲間から、遠方から甲府に来たという中年の男性を紹介された。数日間甲府市内で野宿したとのことだったが、身体的にも精神的にもただ事ではないことが一目でわかった。

その晩は、とにかく布団で寝ていただくとうい宿に泊まってもらった。次の日に、無料低額診療事業を行っている甲府共立病院に同行して診てもらったところ即日入院。病院の医療ソーシャルワーカーの優しい親切なサポートで、不安げな表情から笑みを浮かべて話すまでに心が回復してきた。

病院で何回か話しているうちに、ご自身のつらい過去や、遺書までしたためて山梨に来たこと等話してくれ、ともに友達になろうと「遺書」を預かり、感謝の祈りをした。

その後、甲府市の福祉担当ワーカーの仕事を越えた親身の対応で、アパート等生活の基盤もでき、先に見える生活を通院しながら送れるようになった。

ひとりの死をも覚悟するほどの困窮者に生きる望みを与えるものは、人の優しさや温かさであることを二人のワーカーの対応から改めて教えられた。

弱い立場にある一人との出会いを感謝し、「真の神は、サポートする側ではなく、サポートされる側におられる」との言葉を想起した。

(木村輝三さん)

## 炊出しボランティアより

私たちは、山梨県立大学ホームレス支援サークルの活動の一環として、炊出しボランティアに参加させていただいています。他に主なサークル活動としては、ホームレスの方に食事やお手紙をお渡ししています。

炊出しでは、配膳からお手伝いしています。私が、炊出しの食事についてイメージしていたのは、ひとつの食器に料理をすべて入れて配るというものでした。しかし、ここの炊出しでは、ご飯とは別のお皿に何種類ものおかずが彩りよく盛り付けられており、栄養バランスや見た目もおいしく工夫されていて、その違いに驚きました。

炊出しの利用者さんも、ボランティアで参加している人もそれぞれ準備に参加したり、片付けをされている姿を見て、だれでも主体的に動けるような雰囲気に参加のしやすさにつながっていたり、コミュニケーションの場を作っているのだと感じました。また毎回、私たちがボランティアに行くと、いろんな方が話しかけてくださいます。炊出しだけではなく、そのようなコミュニケーションも楽しみに参加しています。

これからも私たちを中心に、サークルのメンバーと参加させていただきたいと思っています。

(山梨県立大学 ホームレス支援サークル代表 奥村梓)



←ある日のボランティアメンバー

左から2人目が奥村さん

## 行事のご案内

次の行事はどなたでもご参加いただけます。お気軽にお申込みください。

	セミナー「高齢者の貧困と自殺予防」	年末交流食事会(ボランティア募集)
日時	2015年11月15日(日) 14:00~16:30	2015年12月23日(水・祝) 14:00~17:00
会場	山梨県立文学館 研修室	カトリック甲府教会
内容	高齢者の貧困の実態を知り、私たちにできることをともに考えます。 ①講演 山梨県立大学 下村幸仁教授 ②ワークショップ	生活困窮者の方々に食事を提供するとともに交流を深めます。 ①調理、諸準備 14:00~ ②食事、交流会 16:00~ 相談コーナー(生活、労働、健康等)も設けます。
準備物	なし	エプロン、マスク、三角巾(ヘッドキャップ)
参加申込	やまなしライフサポート宛てお申込みください 電話&ファクシミリ 055-241-2545 E.mail yls@mx6.nns.ne.jp	

## 物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ  
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、  
電気ポット、自転車、カーテン

## ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

### 1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後2時~5時(一部でも可)、カトリック甲府教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

### 2. 見守りパトロール

- ・毎月第4日曜日 午後2時~4時30分頃 カトリック甲府教会集合  
(11月は第5日曜日、12月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

## 会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

	年会費
会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	個人 5,000円 団体 10,000円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	個人 5,000円 団体 10,000円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://www6.nns.ne.jp/~yls/information.html>)からダウンロードすることができます。また、お電話いただければ郵送させていただきます。